

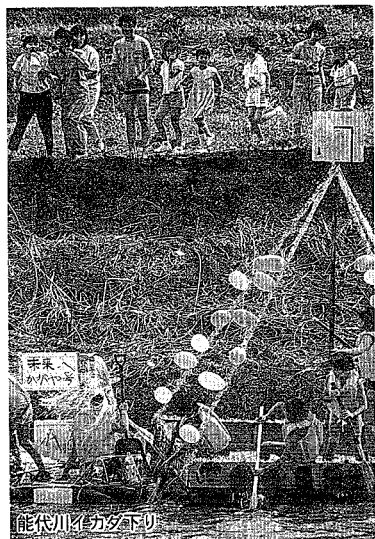
(表からつづく)

自らの力で生活体験や 生き方を学ぶ機会をもっと…

一方、子供たちが学校外でも多くのものを学ぶことができるよう、考えていく必要があります。今日の大人社会においては、「週休2日制」という世論の高まりがみられます。言い換えると、家庭や地域で生活する時間が増えつつある流れです。こうした基盤の上で、子供たちも自由に体験や学習のできる時間を増やし、「ゆとり」を作って「子供の教育本来の姿」を回復させたいという願いがあります。

例えば、子供たちが「ゆとり」を生かして、自分の好きな活動に積極的に取り組んだり、親子での生活体験やその生き方を学んだりする機会が増えることになれば素晴らしいことです。

「学校週5日制」は、これまでの教育のしくみを変える新しい制度の導入と言えます。そのためか、いろいろと賛否両論の声が聞かれます。市教育委員会では、「学校週5日制」の実施にあたっては、自己教育力が一人ひとりの子供たちの身につくよう、いろいろな人たちの意見を参考にして進めていきたいと考えています。プラス面を積極的に取り入れ、また、マイナス面を克服する立場に立って、多くの人たちの理解と協力を求めながら、手立てや方策を考えていくことにしています。



●人にふれ、社会にふれ明るく伸々と。大人の子供時代もそうであったように、ごく自然な生き方が今、子供たちにはとても大事なものになっています。
(左の写真は、小学生参加の能代川イカダ下り大会)



推進会議で検討し 具体的方策を明確化

現在、教育委員会では、市役所各課と連携をとりながら「学校週5日制」の推進事務局を編成して検討しています。また、学校においても具体的な内容について検討してもらっています。近く「推進会議」を発足させて、具体的な方策を明確にしていきたいと準備しています。

次回の市民の皆さんへのお知らせは、その具体的な取組を子供たち向けに編集して、子供たちの休業日での過ごし方のイメージを沸かせる内容にしたいと思っています。